

時間生物学の理論曼荼羅

伊藤浩史[✉]

九州大学 芸術工学研究院

概日リズム研究を行うと、多かれ少なかれ、理論的なアプローチと関わることになる。数式を見るだけで気分を害するという時間生物学会員でも、実験で得た時系列データをスムージングした経験をもつ方は多いだろう。特にここ3、4年で時間生物学会年会の口頭・ポスター発表でも理論的なアプローチを目にすることが多くなったように思える。

一方で理論的アプローチという言葉は、一体どういう作業の事を指しているのだろうか？ピペットマンじゃなくて、コンピュータを使うのが数理だ、と言う方がいるかもしれない。では鉛筆で難しい数式を計算をしている人たちはどうだろう。そもそも数式を扱っていれば数理的というならば、コンピュータでプログラミングをしている人たちは本当は数理じゃ無い・・・？

ここでは、広く生物個体や生体高分子以外の研究

を理論研究と定義しよう。理論研究には大きくわけて物理帝国と情報帝国の二通りの流派がある。そしてその流派の中でも細分化されていて、研究手法の趣味嗜好が異なる。しかし理論研究者のサンプル数の少なさゆえに分野を概観する機会があまり無いように思われる。そこで以下に理論研究者を横目で見てきた筆者の偏見に基づいた理論分野の概観図(曼荼羅)¹を記す。時間生物学会でみかける理論研究者がどこに所属しているのか、分類に役立てていただければ幸いである。

- 1 曼荼羅によって複雑な分野の概観を知るという手法は、三中信宏氏(農環研)の発案によるものである。氏の大統計大曼荼羅 (<http://cse.niaes.affrc.go.jp/minaka/R/R-top.html>) を参考にさせていただいた。

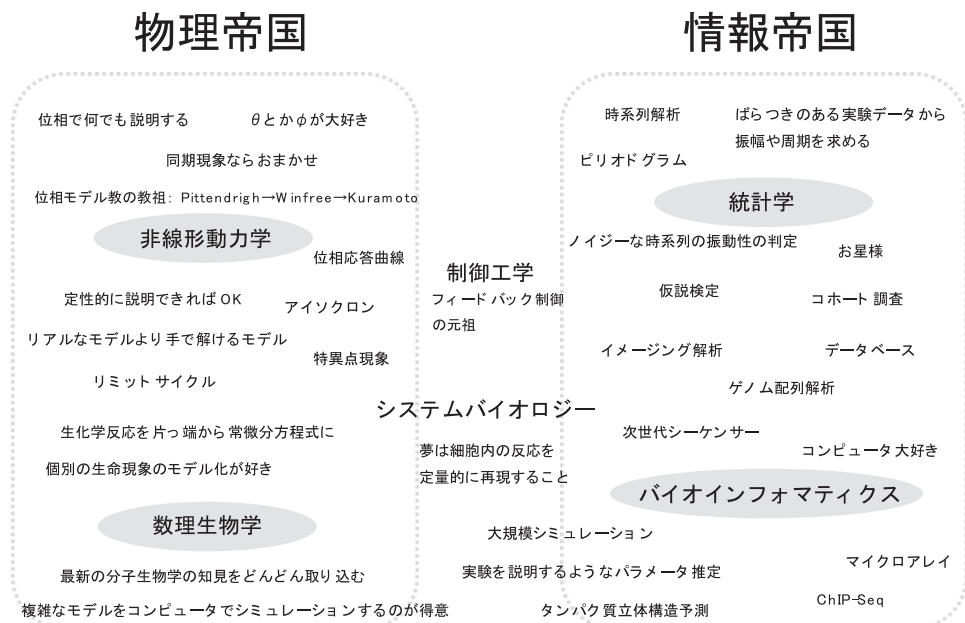


図 時間生物学の理論曼荼羅

✉hito@design.kyushu-u.ac.jp